

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保健Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	保健Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	2 年	学科	ヘアメイク科	2	60
使用教材	保健Ⅱ		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	適切な美容を行うために人体の保健と皮膚科学を解剖学的ならびに生理学的に理解し、「美容実習」および「美容の物理化学」と関連させながら知識の習得する。				
到達目標	人体の基礎知識の習得を図ることによって安全で衛生的な美容の施術を実践できる能力を育て、施術依頼者からの質問にも十分に説明できる。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	国森瑛心佳		実務経験	○	
実務内容	国立総合病院手術室、小児専門総合病院手術室、心臓血管外科、救急救命センター、美容整形外科、美容皮膚科、心療内科、小児科、保育園、児童養護施設などで勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	人体の構造および機能の復習 (第1章～2章)	美容師免許を取得する必要性 頭部・顔部・頸部の体表解剖学、骨格器系の演習（国家試験過去問題）と解説
2	人体の構造および機能の復習 (第3章～4章)	筋系、神経系の演習（国家試験過去問題）と解説
3	人体の構造および機能の復習 (第5章～6章)	神経系、血液・循環器系の演習（国家試験過去問題）と解説
4	人体の構造および機能の復習 (第7章～9章)	呼吸器系、消化器系の演習（国家試験過去問題）と解説
5	皮膚科学（第1章）	皮膚の構造

6	皮膚科学（第 2 章）	皮膚付属機関の構造（毛）
7	皮膚科学（第 2 章～ 3 章）	皮膚付属器官の構造（脂腺、汗腺、爪） および皮膚の循環器系と神経系
8	皮膚科学（第 4 章）	皮膚と付属器官の生理機能
9	総まとめ	テストを実施する
10	皮膚科学（第 5 章）	皮膚と皮膚付属器官の保健
11	皮膚科学（第 6 章）	皮膚と皮膚付属器官の疾患 （皮膚の異常とその種類～皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹）
12	皮膚科学（第 6 章）	皮膚と皮膚付属器官の疾患（日光皮膚炎～分泌異常による疾患）
13	皮膚科学（第 6 章）	皮膚と皮膚付属器官の疾患（化膿菌・ウイルス・真菌による皮膚疾患）
14	解説 皮膚科学（第 6 章）	振り返り・解説 衛生害虫による皮膚疾患～皮膚の腫瘍
15	総まとめ	総まとめを行う
16	皮膚科学の復習（第 1 章～ 2 章）	皮膚の構造と皮膚付属器官の構造の演習と解説
17	皮膚科学の復習（題 3 章～ 4 章）	皮膚の循環器系と神経系および皮膚と付属器官の生理機能の演習と解説
18	皮膚科学の復習（第 5 章）	皮膚と付属器官の保健の演習と解説
19	皮膚科学の復習（第 6 章）	皮膚と付属器官の疾患の演習と解説
20	人体保健および皮膚科学	模擬試験解説または国家試験過去問演習と解説、関連部教科書振り返り
21	人体保健および皮膚科学	模擬試験解説または国家試験過去問演習と解説、関連部教科書振り返り
22	人体保健および皮膚科学	模擬試験解説または国家試験過去問演習と解説、関連部教科書振り返り
23	人体保健および皮膚科学	模擬試験解説または国家試験過去問演習と解説、関連部教科書振り返り
24	人体保健および皮膚科学	模擬試験解説または国家試験過去問演習と解説、関連部教科書振り返り

25	まとめ	まとめを実施する
26	人体保健および皮膚科学	模擬試験解説または国家試験過去問演習と解説、関連部教科書振り返り
27	人体保健および皮膚科学	模擬試験解説または国家試験過去問演習と解説、関連部教科書振り返り
28	人体保健および皮膚科学	模擬試験解説または国家試験過去問演習と解説、関連部教科書振り返り
29	人体保健および皮膚科学	模擬試験解説または国家試験過去問演習と解説、関連部教科書振り返り
30	総まとめ	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	講義	科目名	文化論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	文化論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	文化論		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容業界人として必要な理容業・美容業の歴史を学び、創造を広げるエッセンスとなる日本・西洋のファッション文化史の流れを習得する。				
到達目標	美容師国家試験（筆記）に向けて適切な記述ができる。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容技術理論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石川 裕敏		実務経験	○	
実務内容	美術館、ギャラリー等で作品発表多数。「デッサン・イラストレーション」、「文化論」を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代（明治・大正・昭和20年まで）	明治・大正・昭和の髪型・服装について
2	第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代（明治・大正・昭和20年まで）	明治・大正・昭和の髪型・服装について
3	第3章ファッション文化史日本編 第7節 現代Ⅰ（1945～1950年代）	明治・大正・昭和の髪型・服装について
4	第3章ファッション文化史日本編 第7節 現代Ⅰ（1945～1950年代）	明治・大正・昭和の髪型・服装について

5	第3章ファッション文化史日本編 第7節 現代Ⅰ（1945～1950年代）	現代Ⅰ（1945～1950年代）の髪型・服装・化粧について
6	第3章ファッション文化史日本編 第8節 現代Ⅱ（1960～1970年代）	現代Ⅱ（1960～1970年代）の髪型・化粧・服装について
7	第3章ファッション文化史日本編 第8節 現代Ⅱ（1960～1970年代）	現代Ⅲ（1980～1990年代）の髪型・化粧・服装について
8	第3章ファッション文化史日本編 第8節 現代Ⅱ（1960～1970年代）	現代Ⅳ（2000年代以降）
9	第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装 第2節 洋装の礼装	和装の礼装について
10	第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装 第2節 洋装の礼装	和装の礼装について
11	第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装 第2節 洋装の礼装	洋装の礼装について
12	第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装 第2節 洋装の礼装	洋装の礼装について
13	まとめ	まとめを実施する
14	テスト解説 第3章ファッション文化史日本編 第9節 第10節	テストの振り返り・解説 1980～2000年代の髪型・化粧・服装について
15	総まとめ	総まとめを行う
16	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
17	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
18	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
19	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
20	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説

21	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
22	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
23	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
24	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
25	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
26	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
27	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
28	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
29	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
30	総まとめ	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	講義	科目名	運営管理		
必修選択	必修	(学則表記)	運営管理		
開講				単位数	時間数
年次	2 年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	運営管理		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容経営者として活躍する上で必要とする知識の基礎を理解する。				
到達目標	自身で生活の中から知識や理論を深めることができる。働く者の立場と、経営者の立場のを理解し、キャリアプランに組み込んでいくことができる。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐伯 倫生		実務経験	○	
実務内容	大手通信会社に勤務後、インドネシアにて観光会社を設立。「運営管理」、「関係法規」を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	イントロダクション	講師自己紹介/運営管理の授業の概要・価値/授業の受講ルールを理解する
2	第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第1節 第2節	経営とは何か・継続企業の原則,経営の必要性を理解する
3	第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第3節 第4節	経営資源と経営計画を理解する
4	第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第5節 第6節	経営戦略とは何か/良い店の実現を理解する

5	第2章 理容業・美容業の経営について第1節 第2節	業界の概要について/競争の変化を理解する
6	第2章 理容業・美容業の経営について第3節 第4節	サービスについて/理容業・美容業の顧客についてを理解する
7	第1編 第3章 資金の管理 第1節 第2節	資金管理の重要性と資金の流れを把握/収支と損益を理解する
8	第1編 第3章 資金の管理 第3節 第4節	収支と損益、会計の意味や考え方 コストを管理することを理解する
9	第1編 第3章 資金の管理 第5節	税金①税金の種類と支払うタイミングを理解する
10	第1編 第3章 資金の管理 第5節	税金②税金の申告 青色申告と白色申告を理解する
11	第2編人という資源 従業員としての視点 第1章 人という資源	人という資源・労働者の権利 やる気とは何か、給与の役割、福利厚生を理解する P50～P61
12	第2編人という資源 従業員としての視点 第2章健康・安全な職場環境の実現	健康・安全な職場環境の実現①健康診断
13	第2編人という資源 従業員としての視点 第2章健康・安全な職場環境の実現	健康・安全な職場環境の実現②理美容業の健康問題
14	まとめ	前期授業習得度の確認・前期定期試験
15	振り返り	回答&解説
16	第2編人という資源 従業員としての視点 第3章従業員としての視点から 第1節 第2節	社会保険①国民年金を学ぶ
17	第2編人という資源 従業員としての視点 第3章従業員としての視点から 第2節	社会保険①厚生年金を学ぶ

18	第 2 編 人という資源 従業員としての視点 第 3 章 従業員としての視点から 第 3 節	社会保険②健康保険を学ぶ P 8 0 ～P 8 3
19	第 2 編 人という資源 従業員としての視点 第 3 章 従業員としての視点から 第 3 節	社会保険②国民健康保険・介護保険を学ぶ P 8 3 ～P 8 5
20	第 2 編 人という資源 従業員としての視点 第 3 章 従業員としての視点から 第 4 節	社会保険③雇用保険を学ぶ
21	第 2 編 人という資源 従業員としての視点 第 3 章 従業員としての視点から 第 4 節	社会保険③労働者災害補償保険・マイナンバー制度を学ぶ
22	第 2 編 人という資源 従業員としての視点 第 3 章 従業員としての視点から	後期授業習得度の確認
23	第 3 編 顧客のために 第 1 章 サービス・デザイン	価値の実態 1～3 価値の構造を理解し、システムを学ぶ
24	第 3 編 顧客のために 第 1 章 サービス・デザイン	価値の実態 4～6 価値の役割を理解し、人の役割を学ぶ
25	第 3 編 顧客のために 第 2 章 マーケティング	マーケティング① マーケティングミックス（短期的要因）を学ぶ
26	第 3 編 顧客のために 第 2 章 マーケティング	マーケティング② マーケティングミックス（長期的要因）を学ぶ
27	第 3 編 顧客のために 第 3 章 サービスにおける人の役割	接客の実践①～④ P 1 2 4 ～P 1 3 5
28	第 3 編 顧客のために 第 3 章 サービスにおける人の役割	接客の実践⑤接客におけるトラブル対応
29	総まとめ	後期授業内容の習得度の確認
30	解説 総まとめ	後期筆記内容の解説。 運営管理授業全般の総まとめ

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	演習	科目名	美容技術理論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	美容技術理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年	学科	ヘアメイク科	2	60
使用教材	美容技術理論Ⅱ		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容業界で活躍していくために、美容全般の技術と理論について習得する。				
到達目標	美容師国家試験（筆記）に向けて適切な記述ができる。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 太一		実務経験	○	
実務内容	美容師として20年従事、2016年より「美容技術理論」「保健」を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	≪ 8 章 エステティック ≫ 1. エステティック概論 2. 皮膚の生理と構造 3. カウンセリング 4. 美容におけるマツサージ理論	・エステティックの歴史、範囲、心得、注意点・皮膚の構造・カウンセリングの目的・実際、エステティックにおけるカウンセリング・基本手技
2	5. フェイシャルケア技術 6. フェイシャル及びデコルテマツサージ 7. フェイシャルパック 8. ボディケア技術 9. ボディマツサージ	・フェイシャルの効果、方法・デコルテ、フェイシャルの手順 マッサージにおける手の動かし方と操作ポイント

3	≪ 9 章 ネイル技術 ≫ 1. ネイル技術概論 2. ネイル技術の種類 3. 爪の構造と機能 4. 爪のカット形状 5. ネイル技術と公衆衛生 6. カウンセリング	・ネイルケア、アーティフィシャルネイル、ネイルアート・爪の構造と機能・爪のカット形状・消毒方法の種類、器具の消毒手順、テーブルセッティングの一例・カウンセリング
4	7. ネイルケア 8. アーティフィシャルネイル 9. 手と足のマツサージ	・ネイルケアの道具、マニキュア・ペディキュア技術の手順・アーティフィシャルネイル技術の道具、プレパレーションの手順、ナチュラルネイルオーバーレイ技術の種類、ジェル技術の手順、シルクラップ技術の手順・グルー&フィラー技術の手順、アーティフィシャルネイルの追加とオフ・ハンドマッサージのポイント・手順、フットマッサージのポイント・手順
5	≪ 10 章 メイクアップ ≫ 1. メイクアップ概論 2. 顔の形態学的な観察 3. メイクアップと色彩 4. 皮膚の生理と構造 5. メイクアップの道具 6. スキンケア 7. ベースメイクアップ	・メイクアップ概論（サロンワーク・スタジオワーク）・顔のプロポーション、顔の骨格と筋肉、顔の立体研究、メイクアップによる立体感、顔の凹凸に基づいたブロッキング・色の三属性、マルセル表色系による色の分類、 角度配色・皮膚の生理と構造・メイクアップの道具 ・クレンジング、トーニング、プロテクティング・ファンデーションの目的・選び方、塗り方と順序の一例、多色塗り、ハイライト、ローライト、カバーホワイト ベースメイクのアクセントカラー・パウダリング
6	8. アイメイクアップ 9. アイプロウメイクアップ 10. リップメイクアップ 11. ブラッシュオンメイクアップ 12. まつ毛エクステンション	アイライン、アイシャドー、カラーアイシャドー、パウダーアイシャドー、アイラッシュカール、マスカラ つけまつ毛のテクニック・眉の整え方、ドローイング、シェーディング ・リップの丸みのある描き方、鋭角的な描き方、ブラッシュオンメイクアップ ・まつ毛エクステンションにおける衛生及び保健、道具の一例・カウンセリング、注意事項、施術の一例
7	総まとめ	テストを実施する 8 章～10 章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	≪ 11 章 日本髪 ≫ 1. 日本髪の由来 2. 日本髪の各部の名称 3. 日本髪の種類と特徴 4. 日本髪と調和	・日本髪の由来・日本髪の各部の名称・日本髪の種類と特徴・日本髪と調和
9	5. 日本髪の装飾品 6. 日本髪の結髪道具 7. 日本髪の結髪技術 8. 日本髪の手入れ 9. かつら	・日本髪の装飾品・日本髪の結髪道具・日本髪の結髪技術 ・日本髪の手入れ・かつら（かぶせ方、飾り方、付け方、簪の位置、外し方、持ち方、しまい方、手入れ）

10	≪ 12 章 着付けの理論と技術 ≫ 1. 着付けの目的 2. 礼装 3. 着物と季節 4. 着物のいろいろ 5. 帯 6. 小物 7. 着物各部の名称 8. 着物のたたみ方	・着付けの目的・女子礼装、男子礼装、礼装生地、準礼装、心得・着物と季節・着物のいろいろ ・帯・小物の種類・着物の各部の名称・着物のたたみ方
11	9. 着付けの一般的要領 10. 留袖着付け技術 11. 振袖着付け技術 12. 帯締め、帯揚げの結び方 13. 男子礼装羽織、袴着付け技術	・体型補正、長襦袢の着付け・着物の着付け、帯結び・帯締めの結び方の一例、帯揚げの結び方の一例、男子礼装羽織、袴着付け技術
12	14. 羽織のひもの結び方 15. 女子袴着付け技術 16. 婚礼着付けの際の注意事項 17. 和装花嫁 18. 洋装花嫁(ウエディングドレスの知識)	・羽織のひもの結び方・女子袴着付け技術・美容師自身の身だしなみ、不測の事態に備える、緊張をほぐすための細かい配慮、花嫁の動作に注意する、機敏な動作・和装花嫁・洋装花嫁
13	まとめ	まとめを実施する 11 章～12 章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
14	解説	テストの振り返り・解説
15	美容技術理論Ⅱ 総まとめ	美容技術理論Ⅱ 総まとめを行う
16	美容技術理論Ⅰ 序章・1 章	美容技術理論を学ぶにあたって・美容道具 重点項目振り返り
17	美容技術理論Ⅰ 2 章・3 章	シャンプーイング・ヘアデザイン 重点項目振り返り
18	美容技術理論Ⅰ 4 章・5 章	ヘアカッティング・パーマメントウェービング 重点項目振り返り
19	美容技術理論Ⅰ 6 章・7 章	ヘアセッティング・ヘアカラーリング 重点項目振り返り
20	美容技術理論Ⅰ 総まとめ	美容技術理論Ⅰ 総まとめを行う
21	対策	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
22	まとめ	まとめを実施する 美容技術理論Ⅰ・Ⅱ の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題

23	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
24	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
25	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
26	まとめ	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
27	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
28	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
29	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
30	総まとめ	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	講義	科目名	関係法規・制度		
必修選択	必修	(学則表記)	関係法規・制度		
開講				単位数	時間数
年次	2 年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	関係法規・制度		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容の業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容の業の関連法規に関する知識の習得を図る。				
到達目標	美容の業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、国家試験に対応できる学力の習得を目的とする。				
評価基準	テストおよび小テスト：80％ 授業態度：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐伯 倫生		実務経験	○	
実務内容	大手通信会社に勤務後、インドネシアにて観光会社を設立。「運営管理」、「関係法規」を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	インTRODクシヨン 第1章 法制度の概要 第1節 第2節	美容師免許取得までの流れ、国家試験における関係法規の出題数や傾向の説明 社会における法の役割 日本の法令体系
2	第1章 法制度の概要 第3節 第4節	衛生法規の仕組み 美容師法と附属法令
3	第2章 衛生行政の概要 第1節 ～ 第3節	衛生行政を担う行政機関・保健所の役割
4	第3章 理容師法・美容師法 第1節 第2節	「美容師法」の目的 「美容師法」で用いられる用語の定義
5	第3章 理容師法・美容師法 第3節	美容師免許取得までの過程

6	第 3 章 理容師法・美容師法 第 3 節	美容師免許の申請と欠格条件
7	まとめ	まとめを実施する。
8	解説	振り返り・解説
9	第 3 章 理容師法・美容師法 第 3 節	美容師に求められる義務
10	第 3 章 理容師法・美容師法 第 3 節	免許の変更等があったときの手続き
11	第 3 章 理容師法・美容師法 第 3 節	管理美容師
12	第 3 章 理容師法・美容師法 第 4 節	美容所の開設に必要な届出・検査
13	第 3 章 理容師法・美容師法 第 4 節	開設者が求められる義務および美容所以外での業務
14	まとめ	まとめを実施する。
15	解説・総まとめ	振り返り・解説
16	第 3 章 理容師法・美容師法 第 5 節	立入検査と環境衛生監視員
17	第 3 章 理容師法・美容師法 第 6 節	違反者に対する行政処分
18	第 3 章 理容師法・美容師法 第 7 節	違反者に対する罰則
19	第 4 章 関連法規	美容業の運営に関する関連法規
20	第 4 章 関連法規	美容業の衛生・顧客に関する関連法規
21	まとめ	まとめを実施する。
22	解説	振り返り・解説
23	第 1 章 第 2 章の復習	ワークブック等を用いて問題演習
24	第 3 章の復習	ワークブック等を用いて問題演習

25	第 4 章の復習	ワークブック等を用いて問題演習
26	まとめ	まとめを実施する。
27	解説	振り返り・解説
28	総復習（１）	国家試験過去問演習等
29	総復習（２）	国家試験過去問演習等
30	総まとめ	総まとめを実施する。

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	講義	科目名	衛生管理Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	衛生管理Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年	学科	ヘアメイク科	2	60
使用教材	衛生管理		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	公衆衛生について学び、感染症と環境衛生、消毒の義務や目的など、サロンにおける衛生管理を学ぶ中で、衛生面についての理解する。				
到達目標	不特定多数の人の皮膚や毛髪に直接触れ、刃物や薬剤などを用いて業務をするため、個人としてだけでなく、業を通して公衆衛生・環境衛生を業務に関連付けて説明することができる。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	安井 千春		実務経験	○	
実務内容	薬剤師として病院、調剤薬局の勤務の後、2002 年度から「衛生管理」「保健」を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	第4編 衛生管理技術 1章消毒法総論	消毒法とは・消毒の意義 理美容の業務と消毒との関係・消毒法と適用上の注意
2	第4編 衛生管理技術 1章消毒法総論	消毒法とは・消毒の意義 理美容の業務と消毒との関係・消毒法と適用上の注意
3	第4編 衛生管理技術 2章消毒法各論	理学的消毒法・化学的消毒法の消毒方法 消毒条件・特徴、すぐれた消毒法と実施上の注意
4	第4編 衛生管理技術 2章消毒法各論	理学的消毒法・化学的消毒法の消毒方法 消毒条件・特徴、すぐれた消毒法と実施上の注意
5	第4編 衛生管理技術 3章消毒法実習(1)	消毒液の濃度、希釈の方法、器具の使い方 各種消毒液の調整法と計算の仕方

6	第 4 編 衛生管理技術 3 章消毒法実習(1)	消毒液の濃度、希釈の方法、器具の使い方 各種消毒液の調整法と計算の仕方
7	第 4 編 衛生管理技術 3 章消毒法実習(2)	消毒の原則、器具や布片の消毒と注意点 理美容所の清潔法の実際
8	第 4 編 衛生管理技術 3 章消毒法実習(2)	消毒の原則、器具や布片の消毒と注意点 理美容所の清潔法の実際
9	第 5 編 衛生管理の実践例 1 章衛生管理要領①	第 1～第 4 衛生的取り扱い等
10	第 5 編 衛生管理の実践例 1 章衛生管理要領②	第 1～第 4 衛生的取り扱い等
11	第 5 編 衛生管理の実践例 1 章衛生管理要領③	第 5～第 6 自主的管理体制
12	第 5 編 衛生管理の実践例 1 章衛生管理要領④	第 5～第 6 自主的管理体制
13	まとめ	まとめを実施する。
14	解説	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う
16	公衆衛生	まとめを実施する。
17	公衆衛生	まとめを実施する。
18	環境衛生	まとめを実施する。
19	環境衛生	まとめを実施する。
20	感染症	まとめを実施する。
21	感染症	まとめを実施する。
22	感染症	まとめを実施する。
23	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
24	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説

25	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
26	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
27	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
28	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
29	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
30	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	香粧品化学		
必修選択	必修	(学則表記)	香粧品化学		
開講				単位数	時間数
年次	2 年	学科	ヘアメイク科	2	60
使用教材	香粧品化学		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容器具や香粧品等に関する科学的知識を通し、美容を適切に行う能力と態度を育てる。 「美容保健」、及び「美容実習」と関連させながら、実的な知識の習得する。				
到達目標	美容の香粧品化学・美容機器・香粧品の適正な取扱いができるように、化学の基本原理や応用できる。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	池村 真弓		実務経験	○	
実務内容	国立大学にて9年間、薬物中毒の研究および学生指導に従事。薬局に3年間勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	イントロダクション 1章 香粧品概論	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れを説明
2	2章 香粧品原料	「香粧品の対象となる人体各部の性状」「水性原料」「油性原料の解説と演習
3	2章 香粧品原料	「油性原料」「界面活性剤」「高分子化合物」の解説と演習
4	2章 香粧品原料	「色材」「香料」「その他配合成分」「ネイル、まつ毛エクステンション用材料」の解説と演習
5	3章 基礎香粧品	「皮膚洗浄用香粧品」「化粧水」「クリーム・乳液」「その他の基礎香粧品」「メイクアップ用香粧品」の解説と演習

6	4 章 メイクアップ用香粧品 5 章 頭皮・毛髪用香粧品	「メイクアップ用化粧品の種類と剤形」「ベースメイクアップ化粧品」 「ポイントメイクアップ化粧品」の解説と演習 「シャンプー剤」「スタイリング剤」の解説と演習
7	まとめ	まとめを行う
8	5 章 頭皮・毛髪用香粧品	「スタイリング剤」の解説と演習
9	5 章 頭皮・毛髪用香粧品	「パーマ剤」の解説と演習
10	5 章 頭皮・毛髪用香粧品	「ヘアカラー」の解説と演習
11	6 章 芳香製品と特殊香粧品	「芳香・特殊香粧品」「特殊香粧品」の解説と演習
12	6 章 芳香製品と特殊香粧品	「芳香・特殊香粧品」「特殊香粧品」の解説と演習
13	まとめ	まとめを行う
14	解説	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う
16	付録 香粧品化学を理解するための基礎 化学 付録 1～付録 2	「物質の構成」「物質（水）の構成」の解説と演習
17	香粧品化学を理解するための基礎 化学 付録 3～付録 5	「溶液とコロイド」「イオンと水素イオン指数」「物質の変化と化学反応」の解説と演習
18	香粧品化学を理解するための基礎 化学 付録 6～付録 7	「酸化・還元反応」「タンパク質」の解説と演習 化学範囲の復習
19	香粧品化学	「香粧品分野」重点項目の復習と確認
20	香粧品化学	「香粧品分野」重点項目の復習と確認
21	香粧品化学	「香粧品分野」重点項目の復習と確認

22	化粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
23	化粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
24	まとめ	まとめを行う
25	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説
26	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
27	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
28	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
29	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
30	国家試験対策	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅱ - A		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅱ - A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	ヘアメイク科	2	60
使用教材	オールウエーブ教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート			出版社	公益財団法人理容師美容師試験研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験合格に向けた授業 試験時間内に合格基準を満たす技術を習得する				
到達目標	美容師国家試験合格レベルの技術と国家試験衛生を習得する				
評価基準	総まとめ40% まとめ30% 提出物20% 授業態度10%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅱ－C・美容実習Ⅱ－E				
備考	原則、この科目は対面授業にて実施する。				
担当教員	安川 清美 他16名			実務経験	○
実務内容	神戸、大阪で19年間美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	初回授業オリエンテーション オールウエーブセッティング	この授業の目的、評価基準、マナールール説明、美容師国家試験衛生（技術における衛生上の取り扱い） 1年次おさらい 1段目～3段目、くりぬき（ウエーブ・リッジ）、計測27分
2	オールウエーブセッティング	1年次おさらい 1段目～3段目、くりぬき（ウエーブ・リッジ）復習、計測27分～25分 4段目 右リフトカール、5段目左リフトカール導入（手順、スライス、ピンニング）、美容師国家試験衛生
3	オールウエーブセッティング	1段目～3段目、くり抜き復習、計測25分～20分 4段目 右リフトカール、5段目左リフトカール復習、強化、計測各カール3分、美容師国家試験衛生
4	オールウエーブセッティング	1段目～3段目、くり抜き復習、計測20分 4段目 右リフトカール、5段目左リフトカール復習、強化、計測各カール3分、美容師国家試験衛生 6段目メイボール導入
5	オールウエーブセッティング	1段目～3段目、くり抜き復習、計測20分 4段目 右リフトカール、5段目左リフトカール復習、強化、計測各カール3分、美容師国家試験衛生 6段目メイボール導入
6	オールウエーブセッティング	1段目～3段目、くり抜き復習、計測20分～17分 4段目 右リフトカール、5段目左リフトカール復習、強化、計測各カール3分、美容師国家試験衛生 6段目メイボール復習、強化、7段目クロッキノールカール導入
7	オールウエーブセッティング	1段目～3段目、くり抜き復習、計測20分～17分 4段目 右リフトカール、5段目左リフトカール復習、強化、計測各カール3分、美容師国家試験衛生 6段目メイボール、7段目クロッキノールカール復習、強化、7段構成全体のバランス
8	オールウエーブセッティング まとめ	オールウエーブセッティングまとめを実施する 1段目～3段目、くり抜き、4段目右リフトカール、5段目左リフトカール計測26分 6段目メイボール、7段目クロッキノールカール復習、強化、計測、7段構成全体のバランス、美容師国家試験衛生

9	オールウエーブセッティング	7 段構成全体のバランス、各段、各カール再復習、計測 4 段目～7 段目カール 1 2 分 7 段構成 計測 3 5 ～3 0 分、美容師国家試験衛生
10	オールウエーブセッティング	7 段構成 計測 3 5 ～3 0 分 美容師国家試験衛生
11	オールウエーブセッティング	7 段構成 3 0 ～2 5 分 美容師国家試験衛生
12	オールウエーブセッティング	7 段構成 3 0 ～2 5 分 美容師国家試験衛生
13	オールウエーブセッティング	7 段構成 2 5 分 美容師国家試験衛生
14	オールウエーブセッティング 総まとめ	7 段構成 2 5 分 総まとめを実施する
15	総合授業	前期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅱ - B		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅱ - B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	ヘアメイク科	2	60
使用教材	ワインディング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート			出版社	公益財団法人理容師美容師試験研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験合格に向けた授業 試験時間内に合格基準を満たす技術を習得する				
到達目標	美容師国家試験合格レベルの技術と国家試験衛生を習得する				
評価基準	ワインディング：総まとめ20% まとめ15% 提出物10% 授業態度5% 国家試験カット：総まとめ20% まとめ15% 提出物10% 授業態度5%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅱ－C・美容実習Ⅱ－E				
備考	・原則、この科目は対面授業形式で実施する。 ・この科目は「ワインディング」「国家試験カット」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。				
担当教員	安川 清美 他16名			実務経験	○
実務内容	神戸、大阪で19年間美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【ワインディング】

回数	単元	内容
1	初回授業オリエンテーション ワインディング	この授業の目的、評価基準、マナールール説明 美容師国家試験衛生（技術における衛生上の取り扱い） 1年次おさらい
2	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生 計測ブロッキング（コーム、9ブロック）3分、全頭巻き30分
3	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生 計測ブロッキング（コーム、9ブロック）3分、全頭巻き30分 ブロッキング3ブロック導入
4	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生 計測ブロッキング3ブロック1分、全島巻き30～25分
5	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生 計測ブロッキング3ブロック1分、全島巻き30～25分
6	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生 計測ブロッキング3ブロック1分、全島巻き30～25分
7	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生 計測ブロッキング3ブロック1分、全島巻き25分
8	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生 計測ブロッキング3ブロック1分、全島巻き25分

9	ワインディング まとめ	ワインディング・美容師国家試験衛生 全島計測 20 分でまとめを実施する
10	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
11	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
12	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
13	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
14	ワインディング 総まとめを実施する	ワインディング・美容師国家試験衛生 国家試験タイムで総まとめを実施する
15	総合授業	前期振り返り
各回の展開【国家試験カット】		
回数	単元	内容
1	初回授業オリエンテーション 国家試験カット	この授業の目的、評価基準、マナールール説明 美容師国家試験衛生（技術における衛生上の取り扱い） 1 年次おさらい カット手順再確認
2	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 計測（カッティングのみ）16 分（チェックカット込み）20 分
3	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 計測（カッティングのみ）16 分（チェックカット込み）20 分
4	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 計測（カッティングのみ）16 分（チェックカット込み）20 分
5	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイム
6	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイム
7	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイム
8	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイム
9	国家試験カット まとめ	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイムでまとめを実施する
10	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイム
11	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイム
12	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイム
13	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイム
14	国家試験カット 総まとめを実施する	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイムで総まとめを実施する
15	総合授業	前期振り返り 課題到達目標の確認

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅱ - C		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅱ - C		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	ヘアメイク科	3	90
使用教材	ワインディング教材一式 オールウェーブ教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート			出版社	公益財団法人理容師美容師試験研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験合格に向けた授業 時間内に合格基準を満たす技術を習得する				
到達目標	美容師国家試験合格レベルの技術と国家試験衛生を習得する				
評価基準	ワインディング：総まとめ20% まとめ15% 提出物10% 授業態度5% オールウェーブ：総まとめ20% まとめ15% 提出物10% 授業態度5%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅱ－A・美容実習Ⅱ－B・美容実習Ⅱ－E				
備考	・原則、この科目は対面授業形式で実施する。 ・この科目は「ワインディング」「オールウェーブセットティング」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。				
担当教員	安川 清美 他16名			実務経験	○
実務内容	神戸、大阪で19年間美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【ワインディング】

回数	単元	内容
1	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
2	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
3	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
4	ワインディング まとめ	ワインディング・美容師国家試験 国家試験タイムでまとめを実施する
5	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
6	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
7	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
8	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生

9	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
10	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
11	ワインディング	ワインディング・美容師国家試験衛生
12	ワインディング 総まとめ	ワインディング・美容師国家試験衛生 総まとめを実施する
13	総合授業	総合的授業を実施する
14	総合授業	総合的授業を実施する
15	総合授業	総合的授業を実施する
各回の展開【オールウエーブセッティング】		
回数	単元	内容
1	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
2	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
3	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
4	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
5	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
6	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
7	オールウエーブセッティング まとめ	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生 国家試験タイムでまとめを実施する
8	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
9	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
10	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
11	オールウエーブセッティング	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生
12	オールウエーブセッティング 総まとめ	オールウエーブセッティング・美容師国家試験衛生 国家試験タイムで総まとめを実施する
13	総合授業	総合的授業を実施する
14	総合授業	総合的授業を実施する
15	総合授業	総合的授業を実施する

シラバス

科目の基礎情報①				
授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅱ - D	
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅱ - D	
開講			単位数	時間数
年次	2年	学科	ヘアメイク科	3 90
使用教材	カッティング教材一式 シャンプー教材一式 衛生教材一式 改正美容師技術試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナルマニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人理容師美容師試験研修センター
科目の基礎情報②				
授業のねらい	美容師国家試験第1課題カッティングの構成を理解し、国家試験規定時間内での合格基準の技術を習得する 美容師国家試験第2課題オールウェーブ技術について基礎を理解し習得する			
到達目標	国家試験第1課題レイヤーカット技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す			
評価基準	国家試験カット：総まとめ20％ まとめ15％ 提出物10％ 授業態度5％ シャンプー：10％／各校フリー：総まとめ20％ まとめ15％ 授業態度5％ 各校フリー：総まとめ30％ まとめ15％ 授業態度5％			
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者			
関連資格	美容師国家資格（実技）			
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅱ－B・美容実習Ⅱ－E			
備考	・原則、この科目は対面授業形式で実施する。 ・この科目は「国家試験カット」「シャンプーイング／各校フリー」の2領域に大別されるため、以下「各回の展開」は、領域別に記載する。			
担当教員	安川 清美 他16名		実務経験	○
実務内容	神戸、大阪で19年間美容師として勤務			
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります				
各回の展開【国家試験カット】				
回数	単元	内容		
1	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生		
2	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生		
3	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生		
4	国家試験カット まとめ	国家試験カット・美容師国家試験 国家試験タイムでまとめを実施する		
5	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生		
6	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生		
7	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生		

8	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生
9	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生
10	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生
11	国家試験カット	国家試験カット・美容師国家試験衛生
12	国家試験カット 総まとめ	国家試験カット・美容師国家試験衛生 国家試験タイムで総まとめを実施する
13	総合授業	総合的授業を実施する
14	総合授業	総合的授業を実施する
15	総合授業	総合的授業を実施する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅱ－E		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅱ－E		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	ヘアメイク科	3	90
使用教材	ワインディングまたはオールウェーブ教材一式・カットティング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート			出版社	公益財団法人理容師美容師試験研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験 実技試験合格に向けた授業 試験時間内に合格基準を満たす技術を習得する				
到達目標	美容師国家試験 第1課題・第2課題・国家試験衛生合格レベルを習得する				
評価基準	総まとめ40% まとめ30% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅱ－A・美容実習Ⅱ－B・美容実習Ⅱ－C・美容実習Ⅱ－D				
備考	原則、この科目は対面授業にて実施する。				
担当教員	安川 清美 他16名			実務経験	○
実務内容	神戸、大阪で19年間美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
2	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
3	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
4	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
5	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
6	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
7	国家試験第1課題・第2課題 まとめ	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 まとめを実施する
8	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生

9	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
10	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
11	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
12	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
13	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
14	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
15	国家試験第 1 課題・第 2 課題 総まとめ	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生 総まとめを実施する

シラバス					
科目の基礎情①					
授業形態	実技	科目名	スチール撮影実習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	スチール撮影実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2 年	学科	ヘアメイク科	1	30
使用教材	カメラ機材(※各校にて可能な範囲) 筆記用具		出版社		
科目の基礎情報②					
授業のねらい	作りたいヘアメイクのデザインには、どの様なライトやバック紙を選択すれば良いかを知る				
到達目標	バック紙等、背景の違いによるメイクアップ効果の違いを知る 様々なシーンに合わせた背景を選べるようになる				
評価基準	テスト 50%、提出物 30% 授業意欲 20%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格					
関連科目	美容実習Ⅰ-E、スチール撮影実習Ⅰ、ヘアメイク実践Ⅰ-A				
備考	・原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 ・野外での授業は天候により授業の展開が変わることがあります。				
担当教員	松安 毅		実務経験	○	
実務内容	美容部員として勤務後、フリーランスとして活躍				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション バック紙の使い方と効果	オリエンテーション(後期の流れ・作品撮影・ヘアメイク連動について) 授業の目的目標、評価基準、授業ルール
2	白バック紙にて撮影①	白いバック紙で、光源の違いによる仕上がりを学ぶ バック紙に合わせてテーマ設定をし作品撮影を行う
3	白バック紙にて撮影②	同上
4	白バック紙にて撮影③	同上
5	黒バック紙にて撮影①	黒いバック紙で、光源の違いによる仕上がりを学ぶ バック紙に合わせてテーマ設定をし作品撮影を行う

6	黒バック紙にて撮影②	同上
7	黒バック紙にて撮影③	同上
8	野外のロケーションにて撮影①	野外のロケーションで、光源の違いによる仕上がりを学ぶ バック紙に合わせてテーマ設定をし作品撮影を行う
9	野外のロケーションにて撮影②	同上
10	カラーバック紙にて撮影①	カラーバック紙で、光源の違いによる仕上がりを学ぶ バック紙に合わせてテーマ設定をし作品撮影を行う
11	カラーバック紙にて撮影②	同上
12	カラーバック紙にて撮影③	同上
13	作品制作①	テスト 自分でヘアメイクに合うライティングやバック紙を考え作品制作を行う
14	作品制作②	同上
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	美容科・ヘアメイク科	1	30
使用教材	就職ガイドブック		出版社	自校作成	

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職するうえで必要な知識や心構えを身に付ける 卒業時にはすべての人に感謝の気持ちを持ち愛される存在になっている		
到達目標	就職希望サロンを明確にし、内定取得に向けての知識・心構えが身に付いている。		
評価基準	テスト：５０％　提出物：３０％　授業態度：２０％		
認定条件	成績評価が２以上のもの		
関連資格			
関連科目			
備考			
担当教員	木村　慎吾　他	実務経験	○
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職指導の目的 目標設定	・就職指導を行う目的を理解 ・就職決定までの目標設定(内定者は学校生活の目標)
2	求人票と注意事項の説明	・求人の見方 ・注意事項
3	模擬面接	・模擬面接 ・面接までに必要な準備物
4	社会人とは	・社会人のマナー ・社会人の常識 ・一般常識
5		
6	テスト	・確認のテスト
7	社会人とは	社会人のマナー

8	内定・契約書について	・内定承諾書の出し方 ・誓約書について
9	自己PR	・自己紹介文の作成
10	自己PR	・自己紹介文の発表
11	総合授業	・社会人としてのマインドセット
12	総合授業	・就職活動における総合的な授業
13	総合授業	・就職活動における総合的な授業
14	面接練習	・面接練習
15	面接練習	・面接練習
16	授業内容について	・後期授業内容の確認 ・成績評価
17	グループワーク	・グループワークについて ・テーマ型グループワークの実施
18		
19		
20	コミュニケーションスキル	・プレゼンテーションの実施
21		
22	一般常識	・ビジネスマナー ・一般常識 ・時事問題
23		
24	テスト	・確認のテスト
25	社会人になるにあたって	・ビジネスマインド ・キャリアプラン ・マインドセット
26		
27		
28		
29	振り返り	・今までの振り返り
30	総まとめ	・2年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ヘアメイク実践Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアメイク実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	ヘアメイク科	5	150
使用教材	メイク教材一式、アイラッシュ教材一式 A B E text book Assisutant director			出版社	日本理容美容教育センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	ヘアメイクの技術、知識を身に付ける スキンケア・スキンケア対処方接客について習得する まつ毛エクステンションの取り扱いや正しい知識技能による装着				
到達目標	ヘアメイクの作品作り スキンケアの基礎知識を深めお客様の悩みを解消できるようになる まつ毛エクステンション技術者認定試験合格を目指す				
評価基準	実技テスト60% 提出物20% 授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許、メイク検定アドヴァンス、日本化粧品検定 3 級 2 級				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	メイク➡森本靖子他 3 名 アイラッシュ➡中原明日香 他5名			実務経験	○
実務内容	メイク➡ヘアメイクとして長年勤務 アイラッシュ➡大阪のアイラッシュサロンで7年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	概論 オリエンテーション アドヴァンス検定詳細/練習①	概論と心構え 授業の目的、評価基準、授業ルール 検定テーマに合わせて、メイクアップ、デッサン、プレゼンテーションの詳細説明/練習
	モデル施術導入	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
2	用具、ワゴンセッティング グルーの取り扱い、ツイザー持ち方 アドヴァンス検定対策②	道具確認・ラベル表示・用具理論 ツイザーの持ち方・かき分け・Jカールシート練習 検定テーマに合わせて、メイクアップ、デッサン、プレゼンテーション
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
3	用具・グルーの取り扱い ツイザー持ち方 アドヴァンス検定対策③	ツイザーの持ち方・かき分け・Jカール・Cカールシート練習 検定テーマに合わせて、メイクアップ、デッサン、プレゼンテーション
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
4	衛生管理・保健 アドヴァンス検定対策④	眼について、衛生について（手指消毒・ワゴンセッティン）、Jカール 検定テーマに合わせて、メイクアップ、デッサン、プレゼンテーション

7	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
5	座学確認 アドヴァンス検定対策⑤	皮膚について・まつ毛に関する知識・毛周期 確認項目：概論・衛生管理・保健 検定テーマに合わせて、メイクアップ、デッサン、プレゼンテーション
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える

6	まつ毛エクステンション技術 装着復習・カウンセリング アドヴァンス検定対策⑥	テーピング復習・リムービング導入 テーピング⇒Jカール装着⇒リムービング 検定テーマに合わせて、メイクアップ、デッサン、プレゼンテーション
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
7	カウンセリング・タイムトライアル アドヴァンス検定対策⑦テスト	タイムトライアル導入 模擬検定
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
8	検定対策 アドヴァンス検定対策⑧	タイムトライアル+手順確認 模擬検定振り返り
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
9	検定対策 アドヴァンス検定対策⑨	タイムトライアル+過去問① 検定テーマに合わせて、メイクアップ、デッサン、プレゼンテーション
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
10	検定対策 アドヴァンス検定対策⑩	タイムトライアル+過去問② 検定テーマに合わせて、メイクアップ、デッサン、プレゼンテーション
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
11	化粧品検定対策① まちがえがちな美容知識をチェック	タイムトライアル+過去問③ 検定についての説明・3級内容について・皮膚の構造～皮膚のしくみと働き
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
12	検定対策 皮膚・肌について知ろう	タイムトライアル+過去問④ 皮膚の機能～肌悩みの原因とお手入れ
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
13	化粧品検定対策③ 美肌・美ボディ生活を送るには	検定事前準備（テスト） 肌を劣化させるさまざまな要因～紫外線が肌に与える影響・模擬テスト
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
14	総合授業 化粧品検定対策④ 美肌・美ボディ生活を送るには	ブロウリフト導入 効果的なマッサージの必要性和方法～美しい肌をつくる生活習慣・復習
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
15	総合授業	ラッシュリフト導入
	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ヘアメイク実践Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアメイク実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	ヘアメイク科	3	90
使用教材	メイク教材一式			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ヘアメイクの技術、知識を身に付ける				
到達目標	ヘアメイクの作品作り				
評価基準	実技テスト60％ 提出物20％ 授業態度20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	森本靖子他3名			実務経験	○
実務内容	ヘアメイクとして長年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	各業界に合わせたメイク	ブライダル、サロンなどに必要な技術習得
	前期振り返り	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
2	各業界に合わせたメイク	ブライダル、サロンなどに必要な技術習得
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
3	各業界に合わせたメイク	ブライダル、サロンなどに必要な技術習得
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
4	各業界に合わせたメイク	ブライダル、サロンなどに必要な技術習得
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
5	各業界に合わせたメイク	ブライダル、サロンなどに必要な技術習得
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える

6	各業界に合わせたメイク	ブライダル、サロンなどに必要な技術習得
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
7	テスト	テスト
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
8	各業界に合わせたヘアメイク	ブライダル、サロンなどに必要なヘアメイク
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
9	各業界に合わせたヘアメイク	ブライダル、サロンなどに必要なヘアメイク
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
10	各業界に合わせたヘアメイク	ブライダル、サロンなどに必要なヘアメイク
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
11	各業界に合わせたヘアメイク	ブライダル、サロンなどに必要なヘアメイク
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
12	テスト	テスト
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
13	復習・総まとめ	各業界に必要な技術の総復習
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
14	復習・総まとめ	各業界に必要な技術の総復習
	モデル施術技術	様々なシチュエーションや施術内容を設定し、モデル施術としての技術・接客を学ぶ 施術時間・用具の管理・接客対応・言葉遣い・イレギュラーな対応方法など様々な視点から接客を考える
15	復習・総まとめ	各業界に必要な技術の総復習
	総合授業	総まとめを行う